

ぐんま難病ピアサポーターズ便り

難病ピアサポートとは、難病を抱えて生きる、同じ立場の者同士の支え合いを意味しています。ぐんま難病ピアサポーターは、群馬県難病相談支援センターが実施している「ぐんま難病ピアサポーター養成研修会」の修了生です。みんなにやさしい社会を目指して、自分の疾患の啓発活動や患者交流活動、患者会活動、体験の語り部としての活動などを行っています。

お問い合わせ先：TEL 027-220-8069 (群馬県難病相談支援センター)

研修会

**フォローアップ研修会を開催。
対面で講師を囲み、学びを深め、
楽しいひと時を過ごしました。**

初めてお会いする講師の先生で、ドキドキしながら入室しましたが、柔らかい雰囲気をもとっており、非常に気さくな方でした。社会学からの視点でピアサポートについてお話をいただき、多くの学びある講話でした。

また初めての試みとして「ワールドカフェスタイル」での意見交換を実施。目の前の模造紙に各々テーマに沿って思いや意見を記載し、共有しました。それぞれが持っている「ピアサポーターの姿」を目の当たりにして、気づきが生まれたり、新たな発見を得られました。

年に1回開催しているフォローアップ研修会ですが、ピアサポーター連絡会の方を中心に開催しており、年々繋がりや輪が広がっています。また来年お会いできるのを楽しみにしております。(A)



交流会

初めての交流会。

「対面の交流会は良いですね！」

側にいてくれる安心感が次々と言葉にできる。

仲間の近況報告を聞いていると、私も「話したい」「聞いてほしい」という気持ちになりました。新たな情報の共有や共感で更に盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていきました。

今日は仲間と過ごせたことに感謝の日であり、共感できる言葉を得られた1日でした。これからも仲間との繋がりを大切に、自分自身を深めていきたいと思います。(K)

6月に2回目の交流会が開催されました。

2回目だったので1回目の「初めまして」から「お久しぶりです」に挨拶が変わりました。お互い近況報告をした中で、嬉しい話から深刻な話まであり、皆いろいろな意味で頑張っているんだなと感じました。ピアサポーター同士段々打ち解けて、お互いに嬉しい事、辛い事、相談事等話せる関係性になってきていることを嬉しく感じられた時間でした。(M)

編集 後記

今年度からスタートした「ぐんま難病ピアサポーターズ連絡会」。それぞれが活動をされている中で、連絡会としての支援を考えてみた。2017年にピアサポーターワークショップの取材を受けた上毛新聞の記者と連絡が取れ、現在は群馬県の話者をインターネットに公開していると言う。難病相談支援センターの相談員さんと出演させていただいた。こんな形の支援も良いかと思いました(1)
上毛新聞公式ポッドキャスト「うまがまう」
2024年9月6日 #126「難病って何ですか一緒に生きるために」

ご視聴はこちらから→



お知らせ

冊子「手をつなごう」

群馬県難病相談支援センターでは、事業の一つとして難病ピアサポーターの養成研修会を行っています。この度、身近な存在としてぐんま難病ピアサポーターを知っていただきたく、実施報告書を冊子として作成いたしました。皆さまが抱えている、お気持ちの負担を少しでも軽減できるようにお役立てください。下のQRコードからお読みいただけます。



2023年度版



2024年度版